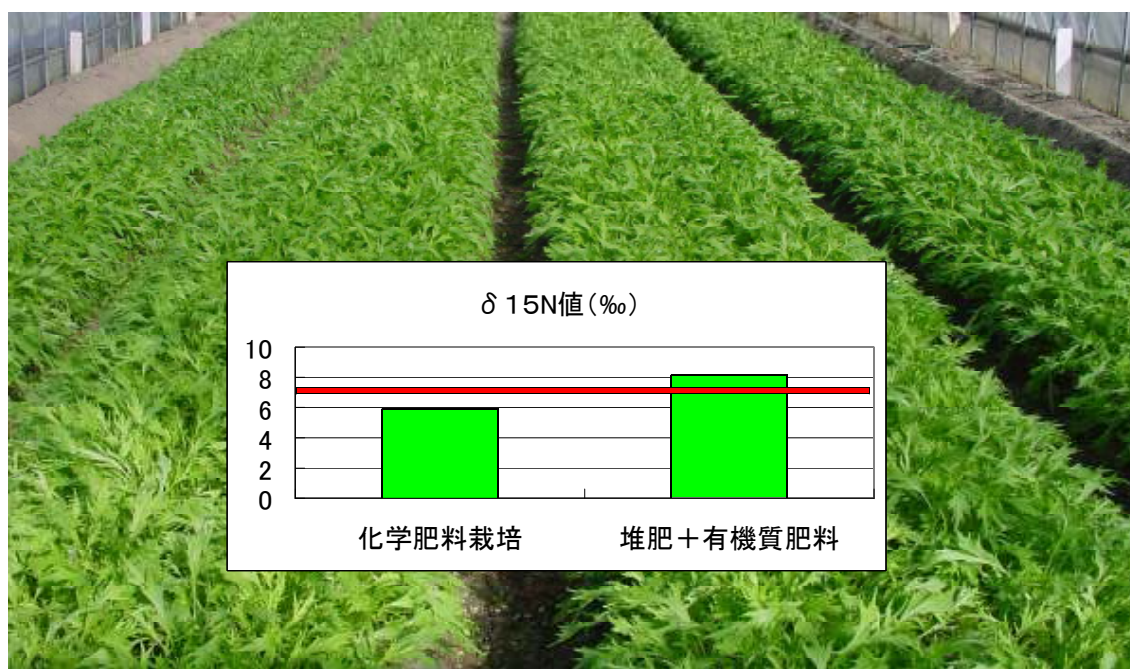


$\delta^{15}\text{N}$ 値を利用した有機質資材施用有無の判定

作物体の $\delta^{15}\text{N}$ 値（自然に存在する重さの異なる窒素¹⁵Nと¹⁴Nの自然存在比）は化学肥料を施用すると低くなり、有機質資材を施用すると高くなる特性があるため、種々の化学肥料、有機質肥料、有機質資材とミズナの $\delta^{15}\text{N}$ 値の関係について検討しました。

その結果、赤い線の $\delta^{15}\text{N}$ 値 = 7 が有機質資材施用の客観的な判定指標の目安になることがわかりました。

今後、トレーサビリティを補足する技術として活用できるように、種々の有機栽培品目の施肥履歴と照合していきます。



施肥管理がミズナの $\delta^{15}\text{N}$ 値に与える影響